

第5回 (仮称) 都心部まちづくりプラン策定懇談会 議事録

1 日時 令和5年10月30日(月) 午後3時30分から午後4時40分まで

2 場所 宇都宮市役所 14階 14大会議室

3 出席委員

学識経験者	大森 宣暁	委員	渡邊 美樹	委員				
関係団体	小関 裕之	委員	平手 義章	委員	鈴木 孝弘	委員		
	齋藤 高藏	委員	檜山 昌彦	委員	齋藤 公則	委員		
	宮本 隆昌	委員	栗原 伸一	委員	増田 良二	委員		
	小島 弘義	委員	松岡 明直	委員	塚田 栄一	委員		
	成澤 哲夫	委員						
交通事業者	中尾 正俊	委員	越野 晴秀	委員				
行政機関	笹沼 政行	委員	石崎 浩	委員				
市民公募	高岡 耕子	委員	手塚 美志子	委員	佐藤 雅哉	委員		

※ 望月 明彦 委員 高橋 功 委員 吉田 元 委員
 近藤 基了 委員 鉢村 敏雄 委員 横尾 元央 委員
 大澤 賢吾 委員 は所用により欠席

事務局 都市整備部 NCC推進課 上田課長, 原口課長補佐(進行)
 NCC推進課 都心部まちづくり推進室 松井室長
 市街地整備課 石川課長 山崎課長補佐
 市街地整備課再開発室 石澤室長

4 会議経過

(1) 開会

(2) 会長挨拶

会 長	<p>本日は、大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>本懇談会では、「都心部まちづくりビジョン」で描くまちの姿を具現化するため、市民活動を支える多様なまちの機能の充実や、居心地が良い街路空間の創出など、人中心のウォークアブルなまちづくりを官民協働で推進する「(仮称) 都心部まちづくりプラン」について、検討を進めてきたところであります。</p> <p>前回7月に開催いたしました第4回の懇談会では、プランに位置付ける施策レベルや、施策展開のイメージとして、「都心部全体に係る施策」や「空間形成に取り組むエリアや路線の設定と施策の位置付けの考え方」など、都心部まちづくりビジョンの実現に向けた施策展開の内容を中心にご議論をいただいたところであります。</p> <p>本日は、前回の内容を踏まえながら、施策の内容と目標指標を中心</p>
-----	--

に、プランの素案について事務局から説明がありますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) (仮称) 都心部まちづくりプラン (素案) について

事務局から資料1に基づき説明

会 長

ありがとうございました。
事務局からは、施策の内容と目標指標を中心に、プランの素案ということで、説明がありました。
3月に中間取りまとめを行った際に、本プランを、各エリアでの即地的な施策展開を検討し、実効性が高いものにしていくとありました。
本日の説明を聞きまして、総論として、都心部全体での施策に取り組み、現場の道しるべとして、特定のエリアや街路で重点的に取り組む施策と、参考となる事業や手法を示し、官民で推進していくという、階層的な施策展開となっており、懇談会で意見がありました地域の課題にも対応した、即地的な取り組みにつながる計画になっているという感想を持ちました。
それでは、只今の内容につきまして、皆様のご意見等いただきたいと思えます。ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

委 員

これまでも何度か発言をしている内容であります。26ページの街路空間と街なかの空間との関係性の図において、道路断面を示していますが、この道路断面は大通りをイメージしているものと思います。しかし、最も肝心のLRTが描かれていません。LRTについての取り扱いはどうなるのでしょうか。
また、この図を本日の資料として使うことについて、市役所内の建設部等との調整がされているのかお知らせいただきたい。

事務局

26ページの図については、これまでも申し上げてきたとおり、特に大通りをイメージしたものではなく、今回プランを策定する中で、道路と沿道を合わせた空間である「街路空間」という言葉を定義するために、描いたものであります。

委 員

将来、大通りについては、LRTを導入して教育会館まで延伸することを市が表明していることを踏まえ、道路断面にLRTが描けないのであれば、25ページのように、イラストは今後作成していくなど、いずれは示されるという表現はしないのでしょうか。

事務局	<p>大通りの断面構成については、商店街関係者などとの勉強会などを開催しながら、現在検討を進めております。</p> <p>本プランにおいては、いただいたご意見を踏まえ、26ページの図についても考え方や注意事項を記載し、誤解のないよう対応していきたいと考えております。</p>
委員	<p>まだ時間もあるので、市役所内部での調整を行ったうえで、断面構成を踏まえた、大通りの将来像を明確にしていきたい。</p>
事務局	<p>委員ご指摘のとおり、大通りの空間をどのようにしていくかということについては、行政だけでなく、地元の方々のご意見もいただきながら、一緒に明確にしていくものと考えております。</p> <p>そうした中で、大通りについては、道路空間の再編に取り組んでいくという考え方をプランの中で示しており、道路空間の明確化については、商店街関係者を中心とした勉強会を事務局とLRT整備課で先日開催をしたところです。</p> <p>勉強会の中では、道路を今後どのような使い方をしていきたいのかについて、意見交換を行いながら、使い方に合わせた必要な機能を組み込んでいくという考えで、道路空間の明確化に向け、検討を進めております。</p> <p>プランにおけるウォークブルなまちづくりを基本に、大通りや大通り以外の特定のエリアや街路についても、空間形成を進めていくための基礎となる考え方をプランで取りまとめております。</p> <p>このプランで取りまとめた考え方にに基づき、今後取組を進めていきたいと考えておりますので、大通りのみで空間形成をしていくということではないという共通認識を持っていただくために、26ページの図については一般化した道路の断面を示しております。</p>
委員	<p>いつ頃LRTが導入された将来像が示されるのでしょうか。</p>
事務局	<p>具体的な時期につきましては、勉強会の進捗などを踏まえ、今後調整してまいります。</p>
委員	<p>25ページに、建替えられた建物のイメージがありますが、これは商店街関係者の皆さんの意見が反映されたものになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>25ページのイメージについても理想として掲げておりますが、具体的な取組については、個別に検討していきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。</p>

委員	<p>端末交通の充実について、手法として電動キックボードなどがあると思いますが、現在の端末交通の活用状況は市で把握しているのでしょうか。</p> <p>また、宇都宮駅西側を走行している自転車のほとんどは、通学の学生だと認識していますが、端末交通の利用については、今後どの程度増加する見通しをもっているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>端末交通については、市で社会実験として実施しております、電動キックボードなどを指しております。利用状況につきましては、現在ポート等を増やしており、利用者が増加傾向にあると聞いております。この端末交通の充実については、将来のLRTが導入した後に、停留所から目的地に行くまでの間などで利用することを想定し、取組方針として掲げているものであります。</p> <p>また、17ページにあるとおり「商店街などを走行する際のルールづくりや注意喚起」というメニューも考えており、学生による通学の自転車も走行しているため、設備の充実の部分と、走行場所等のルールづくりといった細かい部分の取組についても地元の方々と意見交換をしながら、定めていければと考えているところであります。</p>
委員	<p>大通りを自転車が走行するのは、少々危ないような状況が見受けられるため、そのあたりも含めて検討していただきたい。</p>
会長	<p>端末交通については、自転車や電動キックボードも良いと思いますが、高齢者でも対応できるような電動車いす等も検討いただけると良いと思います。</p>
事務局	<p>ビジョンの中でも回遊性を高めるために様々なツールを増やしていく取組方針を盛り込んでおりますので、そのような取組方針に基づいて、端末交通を充実させながら、ウォーカブルなまちづくりを進めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>25ページのまちの変化についての図がありますが、取組や将来像などについては、事前に広く市民等に周知する必要があると感じています。市民等への周知については、どのような考えがあるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>市民等への周知については、オープンハウスという形で、現在各地区市民センターやトナリエ宇都宮のオープンスクエア等で、広く市民に都心部まちづくりについてご説明しているところであります。</p> <p>さらに、都心部まちづくりプランの策定におきましては、パブリックコ</p>

メントの制度を活用し、計画素案の内容を市のホームページや窓口等に掲載することで、広く市民に周知してまいりたいと考えております。

委員 市民の熱量があつてこそそのまちづくりだと思っておりますので、ぜひ市民の熱量を盛り上げられるように取り組んでいただきたいと思います。

委員 道路空間の形成や荷捌き問題等、具体的な取組について、NCC推進課だけではなく、建設部と経済部等としっかり連携をとりながら検討を進めていただきたい。

また、栃木県とも十分に連携を図りながら、まちづくりの取組について検討していただきたい。

事務局 庁内の連携については、現在も取り組んでいるところではありますが、より一層連携を図り、皆様に分かりやすい説明ができるように進めてまいりたいと思っております。

また、栃木県との連携につきましても、日頃から連絡を取り合いながら、宇都宮の街なかをより発展できるように、調整を図ってまいりたいと考えております。

委員 現在、街なかに行くためには、自動車を利用している状況ではありますが、自動車がなくても人を街なかまで運んでくれるようなツールを考えていただきたい。今後、LRTが西口に走行した際に、停留場等まで人をどう連れてくるのかを考える必要があると思います。

もう一点は、宇都宮市の一大イベントである宇都宮駅西側の通りを利用するジャパンカップサイクルロードレースや宮まつりについて、LRT走行後はどのように考えているのか教えていただきたい。

事務局 車がなくても街なかに来られるようにすることについては、現在、公共交通の充実に取り組んでいるところであり、階層性のある公共交通ということで、LRTやLRTに接続するバス、地域内交通といったデマンド交通等を利用して、どこからでも街なかへアクセスできるような階層性のある公共交通を構築しているところでもあります。LRTが導入された駅東側につきましては、すでに構築されている地域もありますので、それらを順次広げていければと考えております。

また、大通りで実施されているジャパンカップサイクルロードレースや宮まつりといったイベントにつきましては、LRTが導入された後も、実施できるように検討しているところでもあります。

委員	<p>ウォークアブルなまちづくりの推進の中では、ぜひこのようなイベントによる経済効果が見込まれるようなまちづくりというのも含めて考えていただきたい。</p>
事務局	<p>そういった経済効果が生まれるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>街路空間の形成についてですが、宇都宮は雷都と呼ばれるまちであり、急な夕立や雷雨があることから、天候に左右されずに生活ができるような空間の形成が必要だと考えております。</p> <p>自動車中心の生活であれば、ドアツードアで、雨から守られた空間で移動することができますので、天候に左右されるということはないと思いますが、公共交通中心の生活になると、どうしても天候に左右されることがあるかと思えます。そのあたりについて、市として考えているところがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>天候に左右されずに雨の中でも出歩くことができる街なかということですが、以前の宇都宮の街には一部屋根となるアーケードがありましたが、アーケードをなくすことで開放的で広々とした空間を形成することができるという利点もあります。沿道等に低層階のビルや休憩施設等を設けることで、天候に左右されず、歩きやすく居心地が良い街なかをつくっていきたいと考えております。居心地の良さをどのようにつくっていくかについて、プランの中に一つひとつ細かいところまで落とし込んでいくのはなかなか難しいところではありますが、今後、どのような街路空間の使い方をしたいかを検討していく中で、具体的なやり方については、行政だけでなく、地元商店街や民間の建物を建てる方などと、一緒に検討していきたいと思っています。その際にいただいたご意見等を具体化できるように進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>宇都宮駅東側にLRTやライトキューブ宇都宮などができ、我々も宇都宮のまちが活性化していくのを実感しているところであります。</p> <p>西側延伸の検討については、非常に期待しているところでありますが、LRTとまちづくりの関連性を早めに出していただきたいと思っています。LRTが西側に延伸するということはある程度我々も納得している部分があるため、早期にかつ計画的にお示しいただければ、我々も再開発にあたって協力ができます。</p> <p>また、市民が利用できるような施設をつくることも重要だと思っています。ただLRTを走らせるのではなく、目的をもった形で、人でにぎわう街なかにするために、ぜひ文化的な施設づくりなど、具体的な案を出していただきたいと思っています。</p>

さらに、駐輪場をもう少し配置していただきたい。毎回意見として申し上げていることですが、小さくてもよいので、駐輪場についても検討していただきたいと思います。

事務局

LRTの計画とまちづくりの関連については、プランの素案の中で一定の考え方をお示ししているところではありますが、個別具体的な再開発や事業についても今後進めていきたいと思っております。

また、街なかへの文化施設等、集客ができるような施設の導入については、重要なことだと思っております。都市機能誘導施設立地促進補助金の取組なども拡充し、現在目的施設の誘導を進めているところであります。県や民間を含めて、目的施設が大通り沿道や街なかに広がるよう民間開発誘導を進めてまいりたいと思っております。

また、駐輪場については、シェアサイクル等の末端交通の充実を掲げており、現在もシェアサイクルのポートを市内に順次増やしております。具体的にどこに設置するか等は、今後、地元の方々と議論しながら、まちづくりを含めて考えていきたいと思っております。

今年度から運用している、優良建築物等整備事業でも、シェアサイクルのポートの設置を補助要件に入れており、このような制度も活用しながら末端交通の充実について進めていきたいと思っております。

委員

県立美術館等の配置場所についても、まちづくりに含めて柔軟に考えていただきたい。

事務局

県立美術館については、県有施設であるため栃木県との調整が必要ではありますが、それ以外の民間施設も含めて文化施設の誘導に向けて取り組んでいきたいと考えております。

会長

目標の指標について、郊外部と都心部との比較や他都市との比較等の手法も盛り込んでいただくとさらに良くなるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

本日皆様から頂いたご意見につきましては、事務局で検討していただき、修正等がありました内容については、私の方で確認させていただいた上で、パブリックコメントに進んでいただくこととしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

特にご意見が無いようですので、その様な形を取らせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

以上で本日の議事を終了します。

(4) その他

事務局より、12月からパブリックコメントの実施及び次回懇談会を令和6年1月頃で調整する旨を説明

(5) 閉会